

C-1 「まつり」に関する研究(3) —まつり糸の太さ—

文化女大家政 ○橋本綾 成瀬信子 三重短大 村田温子 橋本貴美子

目的 被服製作上の技法である「まつり」について、「まつり」部分に比較的引張り強度が要求されるのは、裏袖付や袖口などである。今回は、まつり糸の太さ、針目の大きさ、および布の織糸のすくい本数を変え、「まつり」部分の引張り強度について検討した。

方法 綿ブロード40番を基布とし、カタン糸40番、60番、80番で、普通まつり、くけ、たてまつりをそれぞれ行なった。針目の大きさは、4mmから2mmおきに12mmまで、布の織糸のすくい本数を1本、2本、3本とした。

結果 1、「まつり」部分の引張り強さは、上記のいづれの要因においても差が認められ、布の織糸のすくい本数に最も大きく影響される。また、まつり糸の太さよりも、針目の大きさの方が強さに大きく影響を与える。2、普通まつり、くけにおいては、織糸のすくい本数1本と2本の場合は、いづれの条件でも織糸が切れるが、織糸のすくい3本になると、まつり糸80番ではつねにまつり糸が切れる。3、たてまつりは、他のまつりより強く、まつり糸が切れるため、糸の太さによる強さの差が他のまつりより大きい。